

第 86 回日本細菌学会総会ワークショップ「最近構造研究の進展会：分泌装置、細胞骨格、運動装置、最近表層の構造体を中心に」報告記

執筆：南野 徹（大阪大学大学院生命機能研究科）

宮田新学術領域「運動超分子マシナリーが織りなす調和と多様性」が共催となり、総括班の代表であられる、名古屋大学の本間先生、および金沢大学の福森先生がオーガナイザーとなって第 86 回日本細菌学会総会ワークショップ W7「最近構造研究の進展会：分泌装置、細胞骨格、運動装置、最近表層の構造体を中心に」が、平成 25 年 3 月 19 日（火）午後 3 時 45 分から、幕張メッセの第 2 会場で開催されました。前日は暴風雨でしたが、開催日当日は打って変わって快晴で春らしい陽気でした。ワークショップのスピーカーは私を含め 6 名。細菌学会の正会員であられる、名古屋大の小嶋さんと金沢大の田岡さん除いて、私と京大ウイルス研の森さんは非会員、Dave Popp 氏と Tom Berhardt 氏は宮田新学術領域でサポートして頂いた海外からの招待講演者でした（細菌学会の正会員の皆様から見れば、かなりアウェーなワークショップに感じたかもしれません）。私自身は我々のワークショップは他のシンポジウムやワークショップに比べてかなり異質な感じがしていましたので、会場に人が来て頂けるのかどうか心配していました。しかしながら、なんと蓋を開けてみれば、会場には 130 名以上の方が集まって頂きました（大盛況で、非常に良かったです!!!）。

急遽、福森先生が細菌学会総会に参加できなくなり、田岡さんがピンチヒッターとして見事に座長の代役を務められました。まずは、トップバッターは私南野。講演タイトルは「べん毛特異的シャペロンと輸送ゲート構成蛋白質 FlhA との相互作用」。質問があるかどうか不安でしたが、いくつか質問が出てほっとしました（つかみは OK）。次は、小嶋さん。外国人の招待講演者がいたため、『Seiji Kojima』に変身して英語でトークを。講演タイトルは「細菌べん毛の構築と機能を制御するしくみ」。さすが、Seiji Kojima！あっぱれでした。質問が日本語であったため、講演終了とともにウルトラマンがハヤタ隊員に戻るように『Seiji Kojima』から「小嶋さん」に戻りました。3 番手は森さん。やはり、いつ聞いてもほれほれする、見事な講演でした（懇親会で大腸菌研究の大御所の先生からお褒めの言葉を頂いているのを聞きました。）。ここで、座長が田岡さ

んから本間さんに交代。田岡さんが「生きた細菌細胞表層のナノオーダー構造解析」と言う演題で講演されました。高速AFMのすごさに改めて感激しました。会場からも多くの質問が出ていました。まずは、クリーンナップである3番および4番バッター（野球で言えばですが）がきっちり仕事をしてくれましたので、この時点で「ワークショップは大成功（勝利）」と感じました。その後のDaveさんとTomさんのトークの凄かったこと。Daveさんは「バクテリアのアクチンとチューブリン」の話を、Tomさんは「バクテリアの細胞分裂の際に使われるペプチドグリカン分解酵素」の話をされました。Daveさんは、極低温電子顕微鏡やX線繊維回折による構造解析の話から、光ピンセットを使った生物物理的手法による解析まで、ご自身が直接手を動かして得られたデータを中心に発表されました。Tomさんのサイエンスは言うまでもなく凄かったのですが、それにもましてTomさんは観客を魅了する話術で完璧すぎるほどのエレガントなプレゼンテーションをされました。プレゼンテーションの仕方が非常に勉強になりました。会場からも沢山の質問が出て、議論も活発でした。

最後になりますが、今回のワークショップでは非常に楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。本シンポジウムに参加して頂いた皆様ありがとうございました。また、オーガナイザーならびに講演者の皆様、お疲れさまでした。

